

アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科

【概要】

キリスト教文化がヨーロッパやアメリカの文化の根底であることは周知の通りである。そこで、1999年4月、人文学部欧米文化学科と総合研究所の日本アングロ・アメリカ研究センターを基礎に、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科が設立された。本研究科では、これまでの日本の大学に欠落していた、アメリカ・ヨーロッパ文化の根源にあるキリスト教理解をベースに、深く新しい文化学の構築をめざしている。グローバリゼーションの理念と現実に基づき、本学院の伝統にある国際的視野と教養を持つ人材を育成する。

本研究科は以下に説明する4つの研究コースを持ち、『博士前期課程』と『博士後期課程』を有する。

(1) アメリカ文化学コース

アメリカの文化や社会を形成してきた思想が現代の社会に与えた影響をはじめ、アメリカの政治・経済などの政策の根底にあるものを解明するため、キリスト教がアメリカでどのように展開されてきたのか。また、どのようにアメリカ独自の思想が発展してきたのか。その思想に基づき、建国以来、アメリカがどのように政治外交政策・社会政策をとってきたのかを研究し、アメリカ文化を深く探究する。

(2) ヨーロッパ文化学コース

ヨーロッパではEUの統合、共通ユーロの誕生など、国民国家を超えた新しい動向グローバリゼーションが台頭し、刻一刻と変化してきている。そこで、EUの成立の基盤となった思想を明らかにし、文化変容の問題や文化の比較等を研究。さらにキリスト教思想が哲学、文学、芸術などのヨーロッパ文化全般に与えた影響を深く探究する。

(3) キリスト教文化学コース

世界をリードするアメリカ・ヨーロッパ文化の根底にあるキリスト教思想が、古代から現代までどのように展開したのか。欧米文化にどのような影響を与えたのかを歴史的に解明する。特に、ニーバー、キング、ガンジーなどの諸説から“近代世界とキリスト教”の関わりを重点的に研究。さらに、キリスト教思想から現代をどのように理解するかをも追究する。

(4) 日本文化学コース

日本の思想文化における倫理観の変遷と意味、明治期以降のプロテスタント・キリスト教の影響、さらにコトバへの感性を通して日本文化のなかの語彙の地層を深め、近代日本における民主主義の根底を追求する。

☆「演習Ⅱ」科目の内容は、履修学生の修士論文のテーマに沿って研究指導を行う。

《博士後期課程》

他研究科の修士課程や博士前期課程での研究をより深く掘り下げるため、2001年4月『博士後期課程』を開設。院生自らの研究課題の発展と博士論文作成の指導体制を確立した。複数の指導教員が指導し、それぞれの専門分野での研究の現状や問題意識、研究方法を教授するとともに、論文作成のための研究指導を行う。授業時間帯の設定については、研究の進捗状況を考慮し、教員と学生が協議して柔軟に対応する。

コア科目

アメリカ文化学コース

アメリカ・ヨーロッパ文化学総論 清水/稲田/片柳/和田/東島/村松/高橋		
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
<p>【アメリカ・ヨーロッパ・日本・キリスト教文化学への誘い】 アメリカ、ヨーロッパ、日本それぞれの文化の基礎をなす思想を、広い歴史的視野のなかで大局的に理解するための研究入門となることを目指す。7人の担当者が2回ずつ、それぞれの分野の基本的なテーマについて、研究の視点、研究の意義、研究の方法等に触れながら講義する。 (コーディネーター:清水正之)</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本を見る視点 日本と西洋【清水】 2. 日本を見る視点 日本と東洋【清水】 3. 近世フランスの寛容思想—「寛仁」と「寛容」【和田】 4. 近世フランスの寛容思想—「コンコルド」【和田】 5. 「歴史を考える」とはどういうことか【東島】 6. 日本のなかの中国、中世のなかの近代【東島】 7. アメリカの宗教—建国期【高橋】 8. アメリカの宗教—20世紀【高橋】 9. 近代日本のキリスト教(1)【村松】 10. 近代日本のキリスト教(2)【村松】 11. 比較文化の視点から見たイギリスの両義性(1)【稲田】 12. 比較文化の視点から見たイギリスの両義性(2)【稲田】 13. 近代を切り開いたルターの良心概念【片柳】 14. 日本国憲法に引き継がれた近代良心概念、近代民主主義【片柳】 15. まとめと総括【清水】 		
評価方法	(1)出席率とレポート:100%	
準備学習(予習)	担当教員から指示・配布される文献を熟読し、それぞれの分野の課題や問題の理解に努める。その具体的な内容と分量は、それぞれの担当教員の指示による。	
準備学習(復習)	各教員の授業で提起された問題に対して小レポートを提出する。	
教科書		

アメリカ文化学研究B 高橋 義文		
講義科目	春学期	4単位
講義概要		
<p>20世紀アメリカの代表的神学者ラインホルド・ニーバー(Reinhold Niebuhr 1892-1971)の人間論を、主著『人間の本性と運命』の第1巻「人間本性」の背景とその内容の把握を通して理解する。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに ニーバーの背景① 2. はじめに ニーバーの背景② 3. ギフォード講演とその歴史 4. ニーバーとギフォード講演 5. 自己自身にとっての問題としての人間① 6. 自己自身にとっての問題としての人間② 7. 人間の本性における生命力と形式の問題① 8. 人間の本性における生命力と形式の問題② 9. 近代文化における個人① 10. 近代文化における個人② 11. 近代人の安易な良心① 12. 近代人の安易な良心② 13. キリスト教的人間観の妥当性① 14. キリスト教人間観の妥当性② 15. 神のかたちとしての人間と被造物としての人間① 16. 神のかたちとしての人間と被造物としての人間② 17. 罪人としての人間①-a 18. 罪人としての人間①-b 19. 罪人としての人間②-a 20. 罪人としての人間②-b 21. 原罪と人間の責任① 22. 原罪と人間の責任② 23. 原義① 24. 原義② 25. ニーバーと同時代の神学者の人間論—ブルンナー 26. ニーバーと同時代の神学者の人間論—ブルンナー 27. ニーバーと同時代の神学者の人間論—バルト 28. ニーバーと同時代の神学者の人間論—バルト 29. ニーバーの人間論の特質① 30. ニーバーの人間論の特質② 		
評価方法	(1)出席率:50% (2)レポート:50%	
準備学習(予習)	ニーバー『人間の本性』および、ブラウン『ニーバーとその時代』の指定された箇所を熟読。発表に当たったときにはその準備をする。	
準備学習(復習)	『アメリカ史のアイロニー』および、『ニーバーとその時代』の指定された箇所を読む。	
教科書		

ヨーロッパ文化学コース

アメリカ文化学研究C		
森田 美千代		
講義科目	春学期	4単位
講義概要		
<p>キリストの愛がキングたちの運動を規制する原理であったこと、またガンディーの非暴力的抵抗が彼らの運動の方法であったこと、さらに原理と方法が彼らの運動においては分かちがたく結びついていたことについて学ぶ。この学びは、課題多き21世紀に、高い理想とそれを社会において貫いて生きようと願っている者にとって、確実な導きを与えてくれる。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに① 2. はじめに② 3. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。① 4. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。② 5. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。③ 6. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。④ 7. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑤ 8. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑥ 9. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑦ 10. 『マーティン・ルーサー・キング自伝』を読む。⑧ 11. 『自由への大いなる歩み』を読む。① 12. 『自由への大いなる歩み』を読む。② 13. 『自由への大いなる歩み』を読む。③ 14. 『自由への大いなる歩み』を読む。④ 15. 『自由への大いなる歩み』を読む。⑤ 16. 『自由への大いなる歩み』を読む。⑥ 17. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。① 18. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。② 19. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。③ 20. 『黒人はなぜ待てないか』を読む。④ 21. 『黒人の進む道』を読む。① 22. 『黒人の進む道』を読む。② 23. 『黒人の進む道』を読む。③ 24. 『黒人の進む道』を読む。④ 25. 『良心のトランペット』を読む。① 26. 『良心のトランペット』を読む。② 27. 『良心のトランペット』を読む。③ 28. 『良心のトランペット』を読む。④ 29. おわりに① 30. おわりに② 		
評価方法	(1)出席率:50% (2)レポート:50%	
準備学習(予習)	授業に該当するテキストを事前に読んで、出席する。	
準備学習(復習)	授業で扱われた内容について、授業終了後にまとめておく。	
教科書	クレイボーン カーソン, Clayborne Carson 梶原 寿 『マーティン・ルーサー・キング自伝』(日本基督教団出版局)	

ヨーロッパ文化学研究A		
片柳 榮一		
講義科目	春学期	4単位
講義概要		
<p>ローマ帝国とキリスト教(国家と宗教の問題をめぐって)原始キリスト教にとってローマ帝国とは、一つの運命であったといえる。キリスト教という世界宗教がその中で生まれ、独特の形態で成長していったその基盤であった。この帝国のうちにそれまでの古代地中海文明の遺産が豊かに蓄積されている。メソポタミア、エジプト、そしてギリシアの高度の文明が息づいており、キリスト教もその影響下に狭い民族意識を超えて、人類の宗教としての姿を現したのである。本年は殊に、国家と宗教の問題を考えてみたい。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論① 2. 序論② 3. メソポタミア文明における国家と宗教① 4. メソポタミア文明における国家と宗教② 5. 古代イスラエルの預言者運動における国家と宗教① 6. 古代イスラエルの預言者運動における国家と宗教② 7. 古代ギリシアにおける国家と宗教(1) 8. 古代ギリシアにおける国家と宗教(2) 9. 古代ローマ王政時代の国家と宗教 10. 古代ローマ共和制時代の国家と宗教(1) 11. 古代ローマ共和制時代の国家と宗教(2) 12. 古代ローマ帝政時代の国家と宗教(1) 13. 古代ローマ帝政時代の国家と宗教(2) 14. 古代ローマ帝政時代の国家と宗教(3) 15. 原始キリスト教と国家(1) 16. 原始キリスト教と国家(2) 17. パウロにおける国家と宗教(1) 18. パウロにおける国家と宗教(2) 19. グノーシスにおける国家と宗教 20. ギリシア教父における国家と宗教(1) 21. ギリシア教父における国家と宗教(2) 22. ギリシア教父における国家と宗教(3) 23. ラテン教父における国家と宗教(1) 24. ラテン教父における国家と宗教(2) 25. ラテン教父における国家と宗教(3) 26. 迫害と殉教(1) 27. 迫害と殉教(2) 28. 教父アウグスティヌスの『神の国』 29. まとめ① 30. まとめ② 		
評価方法	(1)平常点とレポート:100%	
準備学習(予習)	前もって渡されたテキストを予習として読んできて欲しい。	
準備学習(復習)	学んだ歴史事象を現代における可能性として考察しなおしてほしい	
教科書		

キリスト教文化学コース

ヨーロッパ文化学研究 B		
稲田 敦子/和田 光司		
講義科目	秋学期	4単位
講義概要		
前半：イギリス像を見る眼をあらたに問い直し、永い伝統を継承しながら同時に新しい時代に対応すべき変革を表している文化状況を中心に、思想的な背景をも検討していきたい。後半：少数派プロテスタントの歴史を中心に、近世から現代にかけてのフランス宗教史を概観し、フランスにおける宗教共存について考える。		
授業計画		
1. イギリス文化の古層:後進性からの出発① 2. イギリス文化の古層:後進性からの出発② 3. イギリス文化の両義性① 4. イギリス文化の両義性② 5. 「大憲章」の時代状況と意義① 6. 「大憲章」の時代状況と意義② 7. イギリス経験論の源流(1)① 8. イギリス経験論の源流(1)② 9. イギリス経験論の源流(2)① 10. イギリス経験論の源流(2)② 11. イギリス経験論の展開過程① 12. イギリス経験論の展開過程② 13. J.S.ミル『自由論』における自由のあり方① 14. J.S.ミル『自由論』における自由のあり方② 15. T.H.グリーンとその時代 16. 中間総括 17. フランス宗教改革① 18. フランス宗教改革② 19. フランス宗教戦争、ナント王令① 20. フランス宗教戦争、ナント王令② 21. 17世紀のプロテスタント① 22. 17世紀のプロテスタント② 23. ナント王令廃止、カミザールの乱① 24. ナント王令廃止、カミザールの乱② 25. 荒野の教会、ヴォルテール、寛容王令① 26. 荒野の教会、ヴォルテール、寛容王令② 27. フランス革命、公認宗教制、19cのプロテスタント① 28. フランス革命、公認宗教制、19cのプロテスタント② 29. 政教分離法、ライシテ① 30. 政教分離法、ライシテ②		
評価方法	(1)ブックレポート:30% (2)期末レポート:50% (3)平常点:20%	
準備学習(予習)	それぞれの思想家の資料を事前に読み込んで、基本的な事例を調べておくこと。	
準備学習(復習)	講義でとりあげたテキストの内容をまとめておくこと。	
教科書		

キリスト教文化学研究 B		
藤原 淳賀		
講義科目	春学期	4単位
講義概要		
キリスト教信仰と文化との適切な関係を考察する。魚が水の中にいるように、人間のあらゆる営みは文化の中でなされる。キリスト教は、絶対的啓示にその源を持ちつつ、文化の中で形成される。そこには常に絶対性と相対性との緊張がある。啓示は、その時代とその地の具体的な文化の中で生まれ育った人間によって受け止められ、理解され、継承され、またその解釈は発展してきた。キリスト教は常に文化の影響の中で形成されるが、単なる文化的所産ではない。キリスト教は、その源を啓示に持つがゆえに、文化を批判し変革する可能性を内に持つ。文化は常に変化し続けるものであるが、キリスト教信仰は、その変化に積極的に関わり得る。本講義では、その文化変革に焦点を置き、適切なキリスト教的文化変革またそれに必要な事柄を考察する。		
授業計画		
1. イントロダクション① 2. イントロダクション② 3. キリスト教信仰における絶対性と相対性: 文化とキリストについて① 4. キリスト教信仰における絶対性と相対性: 文化とキリストについて② 5. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解① 6. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解② 7. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解2① 8. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解2② 9. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解3① 10. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解3② 11. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解4① 12. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解4② 13. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解5① 14. H・リチャード・ニーバーにおけるキリスト教理解5② 15. ヨーダーによるニーバー神学の批判 1① 16. ヨーダーによるニーバー神学の批判 1② 17. ヨーダーによるニーバー神学の批判2① 18. ヨーダーによるニーバー神学の批判2② 19. ヨーダーによるニーバー神学の批判3① 20. ヨーダーによるニーバー神学の批判3② 21. ヨーダーによるニーバー神学の批判4① 22. ヨーダーによるニーバー神学の批判4② 23. ヨーダーによるニーバー神学の批判5① 24. ヨーダーによるニーバー神学の批判5② 25. H・リチャード・ニーバーの神学の批判的考察:キリスト教的文化の変革1① 26. H・リチャード・ニーバーの神学の批判的考察:キリスト教的文化の変革1② 27. H・リチャード・ニーバーの神学の批判的考察:キリスト教的文化の変革2① 28. H・リチャード・ニーバーの神学の批判的考察:キリスト教的文化の変革2② 29. まとめ① 30. まとめ②		
評価方法	(1)出席とディスカッション:20% (2)発表:20% (3)レポート:60%	
準備学習(予習)	毎週の授業準備3時間、発表準備8時間	
準備学習(復習)	レポート20時間	
教科書	H・リチャード・ニーバー、赤城泰『キリストと文化』（日本キリスト教団出版局） Atsuyoshi Fujiwara『Theology of Culture in a Japanese Context: A Believers' Church Perspective』（Pickwick Publications） Glen H. Stassen et al.『Authentic Transformation: A New Vision of Christ and Culture』（Abingdon Press）	

日本文化学コース

キリスト教文化学研究C		
阿久戸 光晴/菊地 順		
講義科目	秋学期	4単位
講義概要		
この授業では、キリスト教倫理学について学びます。特に今年度は「現代文明と非暴力の精神」について学びます。「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀から21世紀へと移行しましたが、戦争は一向になくならないだけではなく、ますます複雑になっています。この授業では、20世紀に非暴力の精神に基づいて展開された運動に注目し、その精神を学び、現代人の生き方について考えたいと思います。直接的に取り上げるのは、アメリカでの公民権運動の指導者マーティン・ルーサー・キングです。しかし、それに先立ち、キングたちの運動を支えることになったアメリカのデモクラシーの精神を学び、それとの連関においてキングの非暴力の精神を見ていきたいと思っています。また必要に応じて、キングに影響を与えたマハトマ・ガンジーにも触れます。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. イギリス・ピューリタン革命の発生（原因と影響）① 2. イギリス・ピューリタン革命の発生（原因と影響）② 3. メイフラワー号の航海と新大陸到着後の聖約① 4. メイフラワー号の航海と新大陸到着後の聖約② 5. ニューイングランド植民地におけるピューリタン〔正統派〕の神政政治① 6. ニューイングランド植民地におけるピューリタン〔正統派〕の神政政治② 7. ロジャー・ウィリアムズらピューリタン〔分派〕の信仰告白闘争① 8. ロジャー・ウィリアムズらピューリタン〔分派〕の信仰告白闘争② 9. アメリカ合衆国各州における人権宣言と連邦憲法修正第一条① 10. アメリカ合衆国各州における人権宣言と連邦憲法修正第一条② 11. リンカーン大統領の奴隷解放宣言とその後の展開① 12. リンカーン大統領の奴隷解放宣言とその後の展開② 13. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その背景① 14. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その背景② 15. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開① 16. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開② 17. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開③ 18. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開④ 19. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開⑤ 20. マーティン・ルーサー・キングと公民権運動—その展開⑥ 21. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その背景① 22. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その背景② 23. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その思想① 24. マーティン・ルーサー・キングと非暴力の精神—その思想② 25. マハトマ・ガンディーと非暴力の戦い—南アフリカ 26. マハトマ・ガンディーと非暴力の戦い—インド 27. マハトマ・ガンディーと非暴力の精神① 28. マハトマ・ガンディーと非暴力の精神② 29. まとめ—現代文明と非暴力の精神① 30. まとめ—現代文明と非暴力の精神② 		
評価方法	(1)平常点:50% (2)レポート:50%	
準備学習(予習)	配布されたプリント等を必ず下読みしてくること（中には英文もあります）。	
準備学習(復習)	学んだことに関して、さらに理解を深める努力をすること。	
教科書		

日本文化学研究A		
清水 正之		
講義科目	春学期	4単位
講義概要		
室町期に日本人は、西洋の宗教と文化にふれることになった。伝来したキリスト教（キリシタン）は、それまでの日本の宗教性に異なるものをもたらしたが、同時に日本の風土の中で、受容され、展開し、最後は、弾圧のなかで、息をひそめることとなった。一神教と多神教的な神観のちがいがいなど、当時のキリシタン文献、反キリシタン文献は、独特な緊張感をもって、今の私たちの前に残る。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに キリシタン研究史から(1)① 2. はじめに キリシタン研究史から(1)② 3. キリシタン研究の周辺 (1) 和辻哲郎らの研究を振り返る 4. キリシタン研究の周辺 (2) 和辻哲郎らの研究を振り返る 5. キリシタン文献から(1)① 6. キリシタン文献から(1)② 7. キリシタン文献から(2)① 8. キリシタン文献から(2)② 9. キリシタン文献から(3)① 10. キリシタン文献から(3)② 11. キリシタン文献から(4)① 12. キリシタン文献から(4)② 13. 反キリシタン文献① 14. 反キリシタン文献② 15. 反キリシタン文献③ 16. 反キリシタン文献④ 17. 文学とキリシタン① 18. 文学とキリシタン② 19. 芸能とキリシタン① 20. 芸能とキリシタン② 21. 西洋自然観とキリシタン① 22. 西洋自然観とキリシタン② 23. 現代とキリシタン研究(1)① 24. 現代とキリシタン研究(1)② 25. 現代とキリシタン研究(2)① 26. 現代とキリシタン研究(2)② 27. キリシタン研究の世界的状況① 28. キリシタン研究の世界的状況② 29. まとめ① 30. まとめ② 		
評価方法	(1)出席とレポート、小論文:100%	
準備学習(予習)	毎回扱う文献、論文、著書に、前もって目を通して欲しい。また各自の関心にそって、概説書、研究書等に当たってほしい。	
準備学習(復習)	毎回提起された問題への解答を用意する	
教科書	海老沢 有道, H. チースリク 土井 忠生 大塚 光信 『日本思想大系 (25) キリシタン書・排耶書 (1970年)』 (岩波書店)	

日本文学研究 B		
		村松 晋
講義科目	秋学期	2単位
講義概要		
<p>近現代日本の思想・キリスト教を対象とした最新の研究論文や著作を講読する。ゼミ形式で行う。選定は受講者の関心を重視し相談の上で行う。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業担当者の研究紹介 2. 研究文献の講読 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 同上 		
評価方法	(1)研究発表と討論:100%	
準備学習(予習)	文献に注記されている先行研究には、原則として、すべてに目を通してくること。発表の際には対論を必ず出すこと。	
準備学習(復習)	自己の研究テーマや方法との交錯および分岐を意識し、みずからの独自性をめぐって思索を深めること。	
教科書		

日本文学研究 C		
		東島 誠
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
<p>あるコトバの成立は、第一にはその概念によって表象される思想の〈成熟〉を示す。それまであまり意識されなかった問題領域が可視のものとして実体化され、認識可能となったことの歴史的な証しであると言ってもよい。たとえば「ハラスメント」というコトバの成立前と成立後の状況を比較するとよいだろう。このコトバによって、それまで水面下に隠蔽されていたものを白日下のものとすることができるようになった。しかし他面、コトバの誕生は、概念の〈値崩れ〉の始まりでもある。ある思想がコトバを得ることによって急速に普及し、人々の意識にごく自然にのぼるようになる反面、そのコトバが成立した当初の張り詰めた緊張感、既存の価値への批判精神は、しだいに後景に退いていくことになる。「ジェンダー」などはさしずめその例であろう。いやそれどころか、既存の価値体系そのものが、記号表現だけ新しい看板を装うようになることも珍しくない。猫も杓子も用いるようになった「マニフェスト」がよい例だ。ここにたって批判の牙は、もののみごとに引き抜かれてしまうのである。(『つながり』の精神史)より)</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション——ことばの文化史 2. 無縁・公界・楽 (他のコトバに変更可能) 3. 〈無縁〉死 (他のコトバに変更可能) 4. 合力 (他のコトバに変更可能) 5. 勧進 (他のコトバに変更可能) 6. 義捐 (他のコトバに変更可能) 7. 義理 (他のコトバに変更可能) 8. 交通スル (他のコトバに変更可能) 9. 交通機関 (他のコトバに変更可能) 10. 江湖 (他のコトバに変更可能) 11. 理想 (他のコトバに変更可能) 12. 公共 (他のコトバに変更可能) 13. 公私 (他のコトバに変更可能) 14. 公議・時宜・公儀 (他のコトバに変更可能) 15. まとめ 		
評価方法	(1)平常点:100%	
準備学習(予習)	教科書を事前に読んでおくこと。	
準備学習(復習)	次回までに調べておくべき言葉を指示する。	
教科書	東島 誠 『〈つながり〉の精神史 (講談社現代新書)』 (講談社)	

共通選択・原書講読

研究方法特論Ⅰ		
森田 美千代		
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
<p>「大学院生としての書く力」の目標を達成するために、担当者は、受講生が論文作成の基礎としての課題や問題を見だし、自分で調べ、学び、考え、整理し、そして、それらをもとにして実際に論文にまとめる方法を身につけることができるように、毎回個人指導をする。また、担当者は、受講生によって提出された小論文・その他に対して、毎回きめ細かな添削指導をする。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. テーマの設定① 3. テーマの設定② 4. 資料の収集① 5. 資料の収集② 6. 本文の作成① 7. 本文の作成② 8. 本文の作成③ 9. 本文の作成④ 10. 本文の作成⑤ 11. 注のつけ方① 12. 注のつけ方② 13. 文献表の作り方① 14. 文献表の作り方② 15. おわりに 		
評価方法	(1)出席率:30% (2)提出物:70%	
準備学習(予習)	受講生は、事前に小論文・その他を提出する。	
準備学習(復習)	受講生は、事前に小論文・その他を提出する。担当者によって添削された小論文・その他を授業終了後に訂正する。	
教科書	河野 哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）	

研究方法特論Ⅱ		
森田 美千代		
講義科目	秋学期	2単位
講義概要		
<p>講義目標を達成するために、担当者は、受講生が論文作成の基礎としての課題や問題を見だし、自分で調べ、学び、考え、整理し、そして、それらをもとにして実際に論文にまとめる方法を身につけることができるように、毎回個人指導をする。また、担当者は、受講生によって提出された小論文・その他に対して、毎回きめ細かな添削指導をする。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. テーマの設定① 3. テーマの設定② 4. 資料の収集① 5. 資料の収集② 6. 本文の作成① 7. 本文の作成② 8. 本文の作成③ 9. 本文の作成④ 10. 本文の作成⑤ 11. 注のつけ方① 12. 注のつけ方② 13. 文献表の作り方① 14. 文献表の作り方② 15. おわりに 		
評価方法	(1)出席率:30% (2)提出物:70%	
準備学習(予習)	受講生は事前に小論文・その他を提出する。	
準備学習(復習)	担当者によって添削された小論文・その他を授業終了後に訂正する。	
教科書	河野 哲也『レポート・論文の書き方入門』（慶應義塾大学出版会）	

原書講読 A (英語)		
		藤原 淳賀
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
本コースは、学術的に重要であるにもかかわらず、邦訳されていない英語文献を取り上げ、英語として読み理解する訓練を行う。		
授業計画		
1. イントロダクション 2. Two Types of Narrative Theology pp.687-688 3. Two Types of Narrative Theology pp.689-690 4. Two Types of Narrative Theology pp.691-692 5. Two Types of Narrative Theology pp.693-694 6. Two Types of Narrative Theology pp.695-696 7. Two Types of Narrative Theology pp.697-698 8. Two Types of Narrative Theology pp.699-700 9. Two Types of Narrative Theology pp.701-702 10. Two Types of Narrative Theology pp.703-704 11. Two Types of Narrative Theology pp.705-706 12. Two Types of Narrative Theology pp.707-708 13. Two Types of Narrative Theology pp.709-710 14. Two Types of Narrative Theology pp.711 15. まとめ		
評価方法	(1)準備:40% (2)授業参加:10% (3)英語理解力:50%	
準備学習 (予習)	課題文献を5度音読した後、内容がわかるまで調べてくること。	
準備学習 (復習)	その日学んだ内容を日本語で1パラグラフでまとめること。	
教科書		

原書講読 B (英語)		
		氏家 理恵
講義科目	秋学期	2単位
講義概要		
英語の論説文・随筆文・物語文などさまざまな文体・様式の英文を読む。単なる訳読にとどまらず、要約や構造のチャート化などを通して、英文の論理展開やレトリックを知り、より深い内容理解を目指す。テキストは、受講者の興味関心に合わせて、また、開講時に行う英語力テストの結果に応じて選択・決定する予定。英語力によっては、読解テスト・翻訳テストを入れることもある。		
授業計画		
1. イントロダクション—授業の進め方、英語力テスト 2. テキスト選択と決定、分担決定、講読担当にあたっての注意 3. 講読1 4. 講読2 5. 講読3 6. 講読4 7. 英文の種類と論理展開 8. 講読5 9. 講読6 10. 講読7 11. 講読8 12. 英文のレトリック 13. 講読9 14. 講読10 15. 講読11		
評価方法	(1)平常点:50% (2)発表:50%	
準備学習 (予習)	テキストは担当部分以外でも必ず前もって読んでおき、知らない単語を調べ、内容を確認しておくこと。担当者は訳だけでなく内容の要約や説明ができるようにし、担当部分のポイントや情報をまとめた発表レジュメを作成すること。	
準備学習 (復習)	授業で講読した箇所は必ず復習しておくこと。	
教科書		

原書講読 A (独語)		
		原 一子
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
<p>少人数の講義なので、例年、受講者のドイツ語学習歴、研究テーマ、興味関心などに応じて、学生と相談のうえ、時間配分や教材を決めている。文法の復習を希望する受講生が多いことから、初めの5~6回は『ABCドイツ語文法読本』によって文法をざっとさらった後、ドイツ語の平易な文献を1、2冊講読している。2冊目の教材としては、過去には、易しいドイツ語の民話集、ヤスパース『歴史の起源と目標』の中から受講生に興味のあるテーマ、ニーチェ『ツァラトゥストラ』などを選んだ。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方の説明、教材の選択、担当者の決定 2. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習① 3. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習② 4. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習③ 5. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習④ 6. 『ABCドイツ語文法読本』による文法の復習⑤ 7. 1冊目のテキスト講読① 8. 1冊目のテキスト講読② 9. 1冊目のテキスト講読③ 10. 1冊目のテキスト講読④ 11. 1冊目のテキスト講読⑤ 12. 1、ないし2冊目のテキスト講読① 13. 1、ないし2冊目のテキスト講読② 14. 1、ないし2冊目のテキスト講読③ 15. 1、ないし2冊目のテキスト講読④ 		
評価方法	(1)出席率:30% (2)学習態度:70%	
準備学習(予習)	宿題の翻訳や練習問題をこなしながら、文法項目を確認する。辞書を引いて授業に臨むことはもちろん、文法事項についても前もって教科書を読んでおくこと。	
準備学習(復習)	翻訳や練習問題が十分に出来ていなかった部分について、文法事項を重点的に確認し復習することは必須である。	
教科書	大岩信太郎『ABCドイツ語文法読本』(三修社)	

原書講読 B (独語)		
		片柳 榮一
講義科目	秋学期	2単位
講義概要		
<p>ボンヘッファーの「信従Nachfolge」を読む。ボンヘッファーはナチスに対する抵抗運動の故に処刑されたことで知られるが、この書は、1935年聖職者ゼミナールで行なったマタイ伝5章以下の「山上の垂訓」の注解。平易なドイツ語ながら、深いメッセージがこめられている。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ボンフェッファーの生涯 2. 「信従Nachfolge」について 3. 序論講読 4. マタイ5.3 心の貧しい人々 5. マタイ5.4 悲しむ人々 6. マタイ5.5 柔和な人々 7. マタイ5.6 義に飢え渴く人々 8. マタイ5.7 憐れみ深い人々 9. マタイ5.8 心の清い人々 10. マタイ5.9 平和を実現する人々 11. マタイ5.10 義のために迫害される人々 12. 八浄福について 13. 山上の垂訓について 14. ボンフェッファーの他の著作について 15. まとめ 		
評価方法	(1)授業への参加度:100%	
準備学習(予習)	次の回のテキストのドイツ語の意味を辞書を用いながら、調べておくこと。	
準備学習(復習)	基本的な文を暗記すること	
教科書		

原書講読 A (仏語)		
		鹿瀬 颯枝
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
<p>先行きが不安な今日、政治的ペシミズムと心理的ペシミズムが入り混じるなか、若者たちの孤独や絶望感は、19世紀初頭に若者たちが罹っていた《世紀病Mal du siècle》を思い起こさせます。1834年、23歳のAlfred de Mussetが<i>Lorenzaccio</i>を通して描いた永遠の青年像とともに読み解いていきましょう。《生きにくさdifficulté d'être》の源をともに考えてみたいと思います。さらには、時間の許す限り、2008年度ノーベル文学賞受賞作家J. M. G. Le Clézioの長編大作から<i>Le Chercheur d'Or</i>を抜粋で、あるいは短編集から一編平易なテキストを取り上げたいと思いますが、開講時に受講生と相談して決めます。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語の実力テスト 2. フランス語の講読に必要な基本的文法事項 3. フランス語の講読に必要な基本的文法事項 4. Alfred de Musset, <i>Lorenzaccio</i> 講読(1) 5. 講読(2) 6. 講読(3) 7. 講読(4) 8. 講読(5) 9. 講読(6) 10. 講読(7) 11. まとめ 12. Le Clézio, <i>Le Chercheur d'Or</i> 講読(1) 13. 講読(2) 14. 講読(3) 15. まとめ 		
評価方法	(1) 授業出席:60%:積極的授業参加が最小限の条件です (2) 発表:20% (3) テスト:20%	
準備学習 (予習)	予習として、少なくとも次回の講読部分を辞書を用いて和訳をしておきましょう。少々難解でも試みてみましょう。	
準備学習 (復習)	授業で講読した箇所を原文のみで読解できるか復習をしておきましょう。	
教科書		

原書講読 A (ラテン語)		
		片柳 榮一
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
<p>名詞は格（主格、属格、与格、対格、奪格）変化に応じて、五つの種類に分かれることを理解し、その代表的なものを覚える。また動詞は人称変化に応じて、四つの類型に分かれることを理解し、代表的なものの現在人称変化を覚える。その他、不定法、命令法、関係代名詞などに関して、その用法を理解する。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. ラテン語の面白さ 2. 主格および対格 3. 奪格 4. 名詞の性および形容詞 5. 奪格支配および対格支配 6. 名詞の数 7. 属格 8. 繫辞 9. 与格 10. 不定法 11. 動詞の人称変化 12. 命令法および呼格 13. 指示代名詞および不定代名詞 14. 関係代名詞 15. まとめ 		
評価方法	(1) 出席率:50% (2) 期末試験:50%	
準備学習 (予習)	知らない単語は前もって調べておくこと。	
準備学習 (復習)	文法事項の暗唱	
教科書	M・アモロス 『ラテン語の学び方』（南窓社）	

原書講読 B (ラテン語)		
		片柳 榮一
講義科目	秋学期	2単位
講義概要		
動詞の過去形、半過去形、未来形、大過去形、先立未来形の人称変化を覚える。さらにラテン語の簡潔な表現法としての奪格別句の用法に習熟する。また接続法を理解し、その用法を理解する。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 奪格別句 2. 形容詞の比較・最上級 3. 変位動詞 4. 非人称動詞 5. 動詞の形容詞 6. 過去形 7. 半過去形 8. 未来形 9. 大過去形 10. 接続法 11. 間接話法 12. 接続詞cumの用法 13. 条件文 14. 結果文 15. まとめ 		
評価方法	(1)出席率:50% (2)期末試験:50%	
準備学習 (予習)	知らない単語は前もって調べておくこと。	
準備学習 (復習)	文法事項の暗唱	
教科書	M・アモロス 『ラテン語の学び方』 (南窓社)	

原書講読 A (ギリシャ語)		
		左近 豊
講義科目	春学期	2単位
講義概要		
新約聖書、七十人訳聖書ギリシャ語文法および原典講読を中心として聖書文献を学ぶ。教科書にそってコイナー・ギリシャ語文法を体系的に学びつつ、できるだけ多くの原典にあたり、実践的なギリシャ語読解力を身につけることを目的とする。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字、発音など 2. 動詞活用 直説法能動現在など 3. 名詞 第一変化名詞など 4. 第二変化名詞 5. 定冠詞、第一、第二変化形容詞など 6. 第二変化女性名詞、第一変化男性名詞、前置詞 7. エイミーの直説法現在、人称代名詞 8. 指示代名詞、強意代名詞など 9. 中動・受動現在など 10. 本時称と副時称、能動未完了過去など 11. 中動・受動未完了過去 12. 能動未来、中動未来など 13. 能動第一アオリスト、中動第一アオリストなど 14. 能動第二アオリスト、中動第二アオリストなど 15. 能動現在完了、中動・受動現在完了 		
評価方法	(1)授業参加:60% (2)単語クイズ:20% (3)期末試験:20%	
準備学習 (予習)	毎回事前に章末問題を解いてから授業に臨むこと各単元の 新出単語リストを暗記して単語クイズに臨むこと。	
準備学習 (復習)	各単元で学んだ文法事項の要点を整理し、章末の発展問題を用いて定着をはかること。	
教科書	Croy N.C. 『A Primer of Biblical Greek』 (Eerdmans)	

演習 (研究指導)

原書講読 B (ギリシャ語)		
		左近 豊
講義科目	秋学期	2単位
講義概要		
春学期に引き続き、新約聖書、七十人訳聖書ギリシャ語文法および原典講読を中心として聖書文献を学ぶ。教科書にそってコイナー・ギリシャ語文法を体系的に学びつつ、できるだけ多くの原典にあたり、実践的なギリシャ語読解力を身につけることを目的とする。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. Aorist Passive indicative, Second Aorist Passive など 2. The Third Declension, Neuter Nouns in -ma など 3. Participles について 4. Aorist Active Participles, Aorist Middle Participles など 5. Aorist Passive Participles, Perfect Active Participles など 6. Contract Verbs について 7. Liquid Verbs について 8. Subjunctive に関して 9. Infinitive に関して 10. Imperative に関して 11. Interrogative Pronoun と Adjective, Relative Pronoun など 12. -mi 動詞について (1) 13. -mi 動詞について (2) 14. Comparative Adjectives など 15. 総括 		
評価方法	(1) 授業参加:60% (2) 単語クイズ:20% (3) 期末試験:20%	
準備学習 (予習)	毎回事前に章末問題を解いてから授業に臨むこと各単元の新出単語リストを暗記して単語クイズに臨むこと。	
準備学習 (復習)	各単元で学んだ文法事項の要点を整理し、章末の発展問題を用いて定着をはかること。	
教科書		

アメリカ文化学 B 演習 I		
		高橋 義文
演習科目	秋学期	4単位
講義概要		
ラインホルド・ニーバーニーバーの著作『光の子と闇の子』(1944) および『世界の危機とアメリカの責任』(1958) を読解しつつ、とくに、ニーバーのデモクラシー論と国際政治の一端を確認し、その現代的意義を考察する。(要約の発表を求める。)		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 『光の子と闇の子』の背景① 2. 『光の子と闇の子』の背景② 3. 光の子と闇の子—ニーバーの議論の視点① 4. 光の子と闇の子—ニーバーの議論の視点② 5. 個人と共同体① 6. 個人と共同体② 7. 共同体と所有① 8. 共同体と所有② 9. デモクラシーの寛容と共同体の諸集団① 10. デモクラシーの寛容と共同体の諸集団② 11. 世界共同体① 12. 世界共同体② 13. ニーバーのデモクラシー論① 14. ニーバーのデモクラシー論② 15. 『世界の危機とアメリカの責任』の背景① 16. 『世界の危機とアメリカの責任』の背景② 17. 世界の危機とその挑戦① 18. 世界の危機とその挑戦② 19. 共産主義の問題① 20. 共産主義の問題② 21. アメリカ民族主義の分析① 22. アメリカ民族主義の分析② 23. 世界政府の幻想① 24. 世界政府の幻想② 25. 国連と自由世界① 26. 国連と自由世界② 27. 文化的協力の限界 28. 軍事力の限界 29. ニーバーの国際政治論 30. ニーバーのアメリカ論 		
評価方法	(1) 出席率、発表、レポート:50% (2) レポート:50%	
準備学習 (予習)	毎回、扱う箇所をあらかじめ熟読しておく。発表担当になった場合には、要約を作成する。紹介する参考文献に目を通しておく。	
準備学習 (復習)	前回扱った部分をよく確認する。	
教科書		

アメリカ文化学C演習 I		
森田 美千代		
演習科目	秋学期	4単位
講義概要		
このコースは、修士論文を完成するための最初のステップとなるコースである。このコースのなかで、授業計画であげた諸論文を読んでその内容を理解し、そしてそれらの諸論文が、論文としてどのように組み立てられているか、先行研究との対話はどうか、資料の収集はどうかなどを、検討する。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに① 2. はじめに② 3. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(1)① 4. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(1)② 5. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(2)① 6. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(2)② 7. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(3)① 8. 「マーティン・ルーサー・キング・ジュニアにおけるキリスト教実践」の黒崎論文(3)② 9. モンゴメリー運動に関する森田論文(1)① 10. モンゴメリー運動に関する森田論文(1)② 11. モンゴメリー運動に関する森田論文(2)① 12. モンゴメリー運動に関する森田論文(2)② 13. バーミングハム運動に関する森田論文(1)① 14. バーミングハム運動に関する森田論文(1)② 15. バーミングハム運動に関する森田論文(2)① 16. バーミングハム運動に関する森田論文(2)② 17. ワシントン大行進に関する森田論文(1)① 18. ワシントン大行進に関する森田論文(1)② 19. ワシントン大行進に関する森田論文(2)① 20. ワシントン大行進に関する森田論文(2)② 21. 受講生のプレゼンテーション(1)① 22. 受講生のプレゼンテーション(1)② 23. 受講生のプレゼンテーション(2)① 24. 受講生のプレゼンテーション(2)② 25. 受講生のプレゼンテーション(3)① 26. 受講生のプレゼンテーション(3)② 27. 受講生のプレゼンテーション(4)① 28. 受講生のプレゼンテーション(4)② 29. おわりに① 30. おわりに② 		
評価方法	(1)出席:30% (2)プレゼンテーション:30% (3)レポート:40%	
準備学習(予習)	該当論文を事前によく読んで出席する。	
準備学習(復習)	授業後は授業中に出てきた疑問や課題に取り組む。さらに、自らのテーマを設定してそれに取り組み、それを修士論文に繋げていくことができるようにする。	
教科書		

ヨーロッパ文化学A演習 I		
片柳 榮一		
演習科目	秋学期	4単位
講義概要		
A. シュヴァイツァーの「生への畏敬」についてアフリカでの医療活動により、「アフリカの聖者」と言われたシュヴァイツァーは、同時に偉大な宗教哲学者でもあった。彼の根本思想である「生への畏敬」は現代のニヒリズムの苦悩を耐えた思想でもある。ヨーロッパのデカダンスの病を担い、カントの倫理的思想を考え抜いた中で生まれた「生への畏敬」の思想の全貌に迫りたい。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. シュヴァイツァーの生涯① 2. シュヴァイツァーの生涯② 3. 彼の主な著作① 4. 彼の主な著作② 5. 『カントの宗教哲学』(1) 6. 『カントの宗教哲学』(2) 7. 『文化と倫理』第一部(1) 8. 『文化と倫理』第一部(2) 9. 『文化と倫理』第二部(1) 10. 『文化と倫理』第二部(2) 11. 『我が幼少年時代』(1) 12. 『我が幼少年時代』(2) 13. 『我が生涯と思想より』(1) 14. 『我が生涯と思想より』(2) 15. シュヴァイツァーの「エビゴーン」体験(1) 16. シュヴァイツァーの「エビゴーン」体験(2) 17. 『イエス伝研究史』(1) 18. 『イエス伝研究史』(2) 19. 『イエス伝研究史』(3) 20. 『使徒パウロの神秘主義』(1) 21. 『使徒パウロの神秘主義』(2) 22. 『使徒パウロの神秘主義』(3) 23. シュヴァイツァーと中国思想家たち(1) 24. シュヴァイツァーと中国思想家たち(2) 25. シュヴァイツァーとインド思想家たち(1) 26. シュヴァイツァーとインド思想家たち(2) 27. 「生への畏敬」の思想の現代的意義(1) 28. 「生への畏敬」の思想の現代的意義(2) 29. まとめ① 30. まとめ② 		
評価方法	(1)討議と平常点:100%	
準備学習(予習)	前もって本文を読んで、問題点を整理しておくこと。	
準備学習(復習)	授業で学んだことを自らのものにするための省察	
教科書		

ヨーロッパ文化学B演習 I		
		稲田 敦子
演習科目	秋学期	4単位
講義概要		
イギリス文化はその両義性に特質があるといえる。その歴史・伝統・民族文化の継承と斬新な革新性には、イングランドを覇権へ導いた主潮たる文化とともに、その対極にある庶民のあり方への視点が示されている。この演習では、自由論の古典とされるミルのOn Libertyを中心に、現代におけるイギリス社会の問題点を事例研究をあわせて検討する。		
授業計画		
1. イギリス経験論(1) 2. イギリス経験論(2) 3. Mill, On Liberty(1) 4. Mill, On Liberty(2) 5. Mill, On Liberty(3) 6. スコットランド啓蒙主義(1) 7. スコットランド啓蒙主義(2) 8. スコットランド啓蒙主義(3) 9. グリーンの自由主義(1) 10. グリーンの自由主義(2) 11. グリーンの自由主義(3) 12. イギリス社会の問題点(1) 13. イギリス社会の問題点(2) 14. イギリス社会の問題点(3) 15. 中間まとめ 16. 事例研究・地域(1) 17. 事例研究・地域(2) 18. アクトンの自由論(1) 19. アクトンの自由論(2) 20. パーリンの自由論(1) 21. パーリンの自由論(2) 22. 事例研究(1) 23. 事例研究(2) 24. 事例研究(3) 25. イギリス文化の両義性(1) 26. イギリス文化の両義性(2) 27. イギリス文化の両義性(3) 28. ゼミ論草稿 29. ゼミ論 30. まとめ		
評価方法	(1)ブック・レポート:20% (2)平常点:30% (3)期末レポート:50%	
準備学習(予習)	テキストを十分に予習すること、	
準備学習(復習)	検討した課題の復習をしておくこと。	
教科書		

日本文化学A演習 I		
		清水 正之
演習科目	秋学期	4単位
講義概要		
これまで様々なキリシタン文献・反キリシタン文献を読んできたが、今学期もそれを継続する。参加者の文献読解を主にするが、今学期は、キリシタンの文化、芸能、文学、世界像等への影響など、対象文献をすこし対象をひろげ、日本人の宗教性とキリスト教との関わりを、多角的に考察していく。神観、イエス観、修業論、靈魂の問題、三位一体の理解、祖先崇拜など、キリシタンと日本の宗教性が、交差する論点を、文献読解を中心にしながら、主題的にまとめていく。		
授業計画		
1. はじめに 2. キリシタンの文化1 3. キリシタンの文化2 4. キリシタンと藝術3 5. キリシタンと藝術3 6. キリシタンと政治1 7. キリシタンと政治2 8. キリシタンと世界情勢1 9. キリシタンと世界情勢2 10. 近世の宗教思想統制とキリシタン1 11. 近世の宗教思想統制とキリシタン2 12. 近代日本とキリスト教1 13. 近代日本とキリスト教2 14. 近代日本とキリスト教3 15. 中間考察 16. 近代日本文学のなかでのキリスト教1 17. 近代日本文学のなかでのキリスト教2 18. 近代日本文学のなかでのキリスト教3 19. 近代日本文学のなかでのキリスト教4 20. 近代日本文学のなかでのキリスト教5 21. 近代日本文学のなかでのキリスト教6 22. 近代日本思想のなかでのキリスト教1 23. 近代日本思想のなかでのキリスト教2 24. 近代日本思想のなかでのキリスト教3 25. 近代日本思想のなかでのキリスト教4 26. 近代日本思想のなかでのキリスト教5 27. 近代日本思想のなかでのキリスト教6 28. 現代日本とキリスト教1 29. 現代日本とキリスト教2 30. まとめ		
評価方法	(1)出席、発表、レポート:100%	
準備学習(予習)	読み進める文献について、まえもって読解しておいてほしい。	
準備学習(復習)	各回提出の小レポートによって、理解を深め、問題意識を整理する。	
教科書	海老沢 有道,H. チースリク,土井 忠生,大塚 光信『日本思想大系(25)キリシタン書・排耶書(1970年)』(岩波書店)	

日本文化学B演習 I			村松 晋
演習科目	秋学期	4単位	
講義概要			
戦後日本キリスト教思想を彩った思想家の著作を講読する。ゼミ形式で進める。対象は受講者の関心をふまえ、相談して決める。現時点で想定しているのは、北森嘉蔵、滝沢克己、井上良雄、有賀鉄太郎、関根正雄などである。狭義の「キリスト者」に限定せず、余力があれば、赤岩栄、田川建三、さらには吉本隆明、平田清明のような存在も考えている。			
授業計画			
1. 担当教員の研究紹介 2. 選定した思想家についての講義 1 3. 選定した思想家についての講義 2 4. 選定した思想家についての講義 3 5. 選定した思想家についての講義 4 6. 研究発表 7. 研究発表 8. 研究発表 9. 研究発表 10. 研究発表 11. 研究発表 12. 研究発表 13. 研究発表 14. 研究発表 15. 研究発表 16. 研究発表 17. 研究発表 18. 研究発表 19. 研究発表 20. 研究発表 21. 研究発表 22. 研究発表 23. 研究発表 24. 研究発表 25. 研究発表 26. 研究発表 27. 研究発表 28. 研究発表 29. 研究発表 30. まとめ			
評価方法	(1)発表内容:50% (2)授業参加:50%		
準備学習(予習)	発表者は参考文献について教員の事前指導を受けること。参加者はレジュメに予め眼を通した上でゼミに参加すること。		
準備学習(復習)	事後は討論の結果をふまえ期末レポートを提出すること。		
教科書			

日本文化学C演習 I			東島 誠
演習科目	秋学期	4単位	
講義概要			
ルイス・フロイスやキリシタン大名、またキリシタン女性をはじめとする、戦国時代の史料を講読することを予定しているが、参加者の希望により変更可能である。			
授業計画			
1. インTRODクシヨン① 2. インTRODクシヨン② 3. 文献講読① 4. 文献講読② 5. 文献講読③ 6. 文献講読④ 7. 文献講読⑤ 8. 文献講読⑥ 9. 研究発表① 10. 研究発表② 11. 文献講読① 12. 文献講読② 13. 文献講読③ 14. 文献講読④ 15. 文献講読⑤ 16. 文献講読⑥ 17. 文献講読⑦ 18. 文献講読⑧ 19. 研究発表① 20. 研究発表② 21. 文献講読① 22. 文献講読② 23. 文献講読③ 24. 文献講読④ 25. 文献講読⑤ 26. 文献講読⑥ 27. 文献講読⑦ 28. 文献講読⑧ 29. 研究発表① 30. 研究発表②			
評価方法	(1)平常点:100%		
準備学習(予習)	講読文献を事前に読んでおく。		
準備学習(復習)	文献講読時に生じた疑問について調べ、研究発表の回に備える。		
教科書			